

令和6年度マサバ太平洋系群資源評価担当学会議 議事概要

日時：令和7年3月3日（月）～12日（水）

場所：メールによるオンライン会議（メールにより議論を行い、承認を得る形式）

参加機関数：23 参加者数：39（外部有識者1名含む）

マサバ太平洋系群およびゴマサバ太平洋系群の新たな管理基準値案と将来予測、令和7年度の資源評価が1月17日に機構HPにて公表された。これを受けて、今後適用する両魚種系群の管理基準値や漁獲シナリオについて、令和7年2月5日に開催された第4回資源管理方針に関する検討会（マサバ太平洋系群・ゴマサバ太平洋系群）において議論された。当該会議での議論の結果を受けて、マサバ太平洋系群の管理基準値案と将来予測に関して、1BルールのもとでF40%SPRをFmsyの代替値とした場合の将来予測とリスク評価について提示を求める依頼が、水産庁からあった（令和7年2月14日付文書）。

本担当学会議では、これに対する回答文書について議論した。

原案から、表現や図の表し方などでいくつかの修正案があったが、基本的な計算結果と結論についての変更はなかった。主な指摘事項と修正点は下記の通りである。

- ・原案では、図7において、簡易MSEによるリスク評価の結果として4つのケース（F50%SPR管理で $\beta=0.7$ と 0.8 、F40%SPR管理で $\beta=0.7$ と 0.9 ）における漁獲量と親魚量の中央値の推移を示していたが、将来の振れ幅を見れる図とした方がよいとの指摘があり、予測区間を示した図に変更した。その図から読み取れることとして、F40%SPR（ $\beta=0.9$ ）の管理では、漁獲量の95%予測区間における上限がF40%SPRを超えること、親魚量や漁獲量の95%予測区間の下限が減少傾向であること、といったリスクがあることを書き加えた。